

3・4年F組	動物と人間について、 とっておきの話をしよう	矢川 晶子
--------	---------------------------	-------

1 単元について

(1) 複式学級の授業でめざす学習文化

複式学級では、「異学年集団」「少人数編成」という特長を生かしながら、一人一人の思いや願いが実現できるよう主体的に学習活動に取り組んでいる。少人数であるので自分の思いを素直に表現していくことや相手の考えをじっくり聞き取る時間が十分に保障され、お互いの考えを広げたり深めたりして学習に取り組んでいる。こういった子供たちの学び合いは、受容的な雰囲気の中で個人の資質や能力が十分に生かされることによって実現していけるものと思われる。相手の思いを受け止めながらも、相手の考えに簡単に同調せず、納得するまで質問したり、自分の考えを相手に十分に伝わるように説明したりする努力を惜しまない学習文化をめざしてきた。このような子供同士の主体性と表現力の発揮できる場を設定できるように常に留意し、実践してきた。

(2) 学習材について

3年生の「動物とくらす」は、9つの形式段落から成り、初めに、「動物と人間の暮らしの昔と今」について述べられ、次に、「動物たちが人間を元気にする力」について事例を挙げ、まとめとして「動物と人間のこれからの暮らし方」について筆者の主張が示されている。子どもたちは動物の持つ「いやし」の力に気づき、人間と動物とのよりよい共生の仕方を考えることができる。作品との出会いから終末の言語活動まで自分の思いや興味を大切に学習展開を行った。4年生の「体を守る仕組み」も、三つのまとまりで構成されている。第一のまとまりでは、日常誰もが無意識に行っている呼吸という行為に目を向けさせて読者の関心を高め、読む意欲を持たせている。第二のまとまりでは「病気の原因になる微生物を体内に入れないようにする仕組み」「体内に入ってきた場合の守り方」について説明し、第三のまとまりでは、「体を守る仕組みのすばらしさ」をについてまとめている。書かれている内容を正確に読み取り、段落相互の関係をつかんで、接続語の働きを理解することに留意した。終末での言語活動では、本文の学習を基にして主体的に情報収集し、選択してまとめていく力を伸ばしていけるものと考えた。

(3) 本単元での教師の願い

中学年である本学級の子どもたちは、社会の出来事やスポーツ、日々の人間の暮らしや地球環境、動物の生態など様々なことに興味や関心を抱いている。21世紀は自分に必要な情報を適切に活用し、自分なりに言葉を通して発信していく力を養うことが必要になるだろう。一方、情報を目的に応じて選択することや、メディアでの情報だけでなく直接的なかかわりや実際のふれ合いを通して学習してほしいとも考える。本単元では「読む」「書く」「話す・聞く」力を存分に発揮し、情報収集力や発信力など総合的な言葉の力を伸ばすことをめざした。そして、3、4年生共に、自分の身のまわりを見つめ直し、動物の持つ癒しの力に気づいたり、自分の体をいとおしく思ったりしながら、生命を大切にすることを養ってほしいと願った。

2 実践の考察

(1) ワークショップを通して

本単元は、言語活動を中心にして「異学年」「少人数編成」という複式学級の特長を生かしながら、子供たちの主体的な学習を進める力と情報発信能力やコミュニケーション能力といった表現力を育てようとして取り組んだものであった。単元の終末の設定する適切な言語活動については、一

人一人が話し手と聞き手の両歩の立場になり得ること、タイムリーで自由なやりとりができること、生き生きと自信を持って話したり、楽しく聞いたりできることをポイントにして考えることにした。そこで、ワークショップ(workshop)という子供たちにとって初めての活動に挑戦することとなった。ワークショップには、「工作や修理などの仕事・作業場」、「参加者の自主的な活動方式の研究集会・講習会」という意味がある。参加者による自由な討論や交流が行われ、しかも、単に"口"だけでなく、手足を使った参加と活動であり、討論の苦手な日本人に向いていると言われている。ワークショップは単なる発表形式ではなく、聞き手の反応を確かめ、聞き手とのやりとりを通して進めるよう指導した。

子供たちのワークショップの内容(♥♣ ◆♣着目児)

3年生:・♥自分が飼っているペット(チンチラ猫)について ・家のペット(アメリカンショートヘア猫)について ・ハムスターの種類とひみつ ・♣わたしの2ひきの犬(熊君とチャー君)について ・いろいろなハムスターと飼い方について ・ぼくの犬(ゴールデンレトリバー)「さくら」について

4年生:・◆口のはたらき・目・赤血球・♣だえき・鼻 ・まゆ毛、まつ毛、なみだ

(2) ワークショップ(本時)までの学習

①着目児について

3年生男子♥は、人とのコミュニケーションを好み、自分から関わりを積極的に持つことができる。スピーチや日記など、自分の思いを生き生きと言葉で表現できる。しかし、人前では意外に緊張し、応答がスムーズに行かないことが多い。どんな場でも自信を持って説明する力をつけるようにと願っている。3年生女子♣は、将来、獣医さんになりたいと願っている子どもで、本や新聞、テレビなどからたくさんの動物の情報を知っていて、詳しい知識を持っている。そのため、本単元では、積極的に学習に取り組み、ワークショップへの意欲も高い。自分の愛犬について積極的に他の子に説明し、質疑応答が十分にでき、楽しんで活動していた。

4年生男子◆は、常に、学習に前向きに取り組み、課題学習に向かって主体的に取り組める児童である。課題設定に際しては、迷いもあったが、自分の力で情報を選択し、まとめられていた。場の意識やきちんとした言葉遣いで人前でも自分の言いたいことを伝えられた。4年生女子♣は、アレルギー体質であるため、自分自身の体のことや病気のことなどに関心が高く、本単元では一貫して意欲的に取り組んでいた。低学年児童にも、工夫してわかりやすく説明できると思われる。説明の仕方では3年生のよいお手本となり、単元を通して他の子により刺激を与えていた。

3年生の動物と関わった経験

- ・♥ぼくは、ねこのチンチラを飼っていていつも、「ニャーオ」と言ってねこのまねをしたりいっしょに声を出してのどまんをしてあげています。お手をするしおすわりもするから、見ているうちにストレスがかいしょうする。遊んでいたらなんだか楽しい気持ちになります。
- ・♣わたしは、犬のロングチワワを2匹飼っています。チャー君に芸を教えていますはまだ、できません。熊君は、おすわりをマスターしたけれど、チャー君はまだです。チャー君より熊君のほうがかしこらしく今ではおやつなしでおすわりと言っただけでもします。チャー君も早く覚えてほしいと思っています。

4年生の初発の感想

- ・♣微生物にとって、体はとても住みごこちがいいことがはじめてわかった。ほかにも体を守る仕組みをいっぱい知りたい。
- ・◆病気の原因になる微生物の種類や、どんなときに微生物が入りやすくなるか知りたい。白血球が角を出して、微生物を殺すことがすごいと思いました。

教材文を読んで、3年生は、自分が今まで飼ったことのある動物のことなどに、話が進んだが、内容については、ほとんど自分なりに知っていることが多く、新しい知識を得たという感動はあまり見られなかった。むしろ、他にももっと人間と動物のことを知りたいと思う気持ちが強かったようである。

4年生では、微生物に対して体の外部にも内部にも、侵入を防ぎ、守る仕組みがあることに興味を持ち、調べ学習への意欲が感じられる感想が多かった。

3年生の「動物とくらす」は、問題提起→事例→筆者の主張となっている。比較的わかりやすい構成と思われたが、一人学習の段階で「問いかけの文」「例」という意味を理解していない子供が多く、全体学習の場でしっかり確認する必要がある。

4年生は、「体を守る仕組み」のそれぞれの段落の内容をつかみ、要点をよくまとめていた。しかし、全体がいくつのまとまりになっているかでは、4つのまとまりととらえていた子が多かった。序論・本論・結論という三つのまとまりを大きくつかみ、例の部分が2カ所あることを指導したが、二つの例をきちんととらえていることを評価し、子供たちの意見を尊重しながらまとまりに分け、解釈した。

(3) 本時の学習

①複式学級全体の交流を通して、伝える力を高める

ワークショップには、複式学級の1・2年生16人と5・6年生14人を招待することを話し、質問や意見など積極的なコミュニケーションすることをイメージさせて取り組ませた。ワークショップのような表現活動を提示する場合、内容意識や目的意識を十分持たせるだけでなく、具体的な相手意識を持たせることが大切である。場の意識や方法など具体的な活動のイメージをつかませるように支援した。自分たちのクラスだけの異学年交流よりも年齢の幅が広がるため、相手が理解しやすい説明の仕方、質問されても答えられるような確かな情報を持っておくという必然性が生まれた。

3年生では子供たちが内容に自信を持って発表できるよう、「家で飼っているペットと自分との関わり」を中心にして、写真を使い、自分の言葉でまとめるようにした。

4年生は、デジカメで自分を映し拡大し、ポスター9分割から16分割にして、プリントし貼り合わせた。その後、自分の身体の特徴などをカードに書き、写真といっしょに模造紙に貼った。そして、目や鼻、口などの体を守る仕組みについて、養護教諭や本、インターネットのコンテンツから情報を収集し、紙芝居やクイズにすることになった。紙芝居やクイズは、1・2年生が分かりやすいように工夫をしたものだった。



ワークショップでは、教師のみとりの観点として、
・相手の反応を見たり確かめたりして、話しているか
・質問されたことを次の説明に生かしているか
・相手の話を受け取って、質問したり話をしたりしているかである。

前半の20分は、3年生が発表を受け持ち、4年生は、1・2年と5・6年に混じって聞き手になった。3年生は、自分の愛犬についてビデオを使って説明したり、♠児は、家族が二匹の愛犬を連れてきてもらい、実際に犬の体に触らせてあげたりしながら発表したもので、1・2年生は大喜びであった。そのことによって、他の児童はリアルに動物の人間を癒す力を十分に体感できただろう。

後半の20分は、4年生が発表をし、自分の体の説明や体を守っている仕組みについて、絵やクイズにして聞き手と話しながら説明できていた。◆児の発表のは、声の出し方や間の取り方、

全体のまとめ方や表情などポイントをしっかりと押さえられ、聞き手にも分かりやすかった。

少ない子でも5回、多い子では8回くらい説明を繰り返したので、最後はやや疲れ気味であった。

ワークショップでは、聞き手が目の前にいて相手の反応を確かめながら発表することができ、気軽に質問できる雰囲気を作り出される。3年生も4年生も、たくさんの人に説明を熱心に聞いてもらえたことにとっても満足していた様子であった。

終わりの5分間で、自己評価と相互評価を簡条書きでプリントにまとめて、感想や意見を出し合った。その中では、「質問してくれた人は少なかったけど、一生懸命聞いてくれたのでうれしかった。」「最初、少し緊張したけど、がんばって説明して終わったときに拍手をしてくれた。」「満足感を味わった感想が多かった。♥児は、精いっぱい相手に自分の飼っている猫と自分とのかかわりを伝えようと、大きな声で説明でき、自信を深めたようである。どの子も、自分の力で工夫して模造紙のポスターを書き上げたこと、説明原稿を作り時間配分を考え、発表の練習を行ったこと、そして、本時で大勢の人に聞いてもらえたことが喜びとなり、その過程で「読む」「書く」「まとめる」「話す」「聞く」「振り返る」といった力を伸ばすことができたと考えられる。

3 今後の課題と展望

本単元では、教材文にそって内容を学習し、一人学習や子供たち同士で話し合う場において基礎的な言語能力を高め、後半の言語活動によって主体的な学ぶ力を発揮し、実際の場で確かな表現力を高めることを願って実践した。これまでの学習経験がどれだけ確かに身につけているかは、個人差が大きく、一人一人が調べ学習やまとめ学習に入る段階では3年生では、個別に指導する時間が多大に必要になった。それは、一人一人が全く違ったテーマで取り組んでいるので、4年生の子供たちすら自分のことで精一杯であったため、結果的に教師に支援を求めることが多くなったのだろうと思われる。

少人数である複式学級であっても、全員に調べ方やまとめ方についての確に対応することは難しい。14人全体の子供たちに必要に応じて十分に指導し切れたのかどうか疑問が残る。また、ワークショップでの子供の姿を同時にとらえることも難しく、他の聞き手に遮られて着目児の様子が分かりづらかったが、子供たちは相手と会話し、やりとりする中で、言語を介して他者と伝えあうためのよりよい方法とは何かを学ぶことができたと感じている。

今後も教材にふさわしい生きた言語活動を工夫し、子供たちに教材文や人とのかかわりを通して教師と子供たちが一体となって言語能力を高めていくようにしていきたいと考える。

4 実践研究テーマの設定

3年間、複式学級での国語科指導のあり方を探り、実践に取り組んできた。それは、複式での学年別の直接指導と間接指導の指導と支援、子供たちの育てるべき力、教材教具の工夫、また、異学年交流のさせ方、単元の設定の仕方等多岐に渡っているが、残念ながら未だ、自信を持って胸の張れる実践はない。その理由は、例え3年生が成功しても4年生ではあまり深まった様子が見られなかったり、学年間の必然性や意味のある交流の時間が作れなかったりするからでもある。

同時に、適切な課題や支援が用意できなかったこともある。

国語に限らず複式の授業を成功させるには、やはり、子供一人一人が真に、主体的に学ぶ力を発揮し、めあてにそった活発な意見交流をすることが必要であるだろう。今後も複式学級で生活する子供たちのよりより学習と生活を実現するために、絶えず教師が自問自答し、子供の成長する姿をとらえていきたいと考える。